2026 年 11 月 19 日
一般社団法人日本損害保険協会　東北支部

岩手県総合防災訓練で地震保険・水災補償を周知

～メイン会場の二戸市と一戸町は地震保険の付帯率が県内ワースト１・２位～

日本損害保険協会東北支部岩手損保会（会長：箕輪 正隆・損害保険ジャパン株式会社、岩手支店長）は、11 月 7 日（土）に行われた令和 8 年度岩手県総合防災訓練に参加し、地震保険および火災保険に付帯される水災補償の必要性を周知いたしました。

県内の複数箇所で実施された訓練は、「数日間降り続いた大雨と、青森県沖を震源とする震度 6 強の地震により、複数箇所で土砂災害やライフライン損壊が発生し、多数の死傷者・行方不明者が出たこと」を想定して行われました。当支部が参加した訓練会場である「一戸町体育館」では、町内の自主防災組織と地元中学生による避難所設営訓練が行われ、訓練の合間に多くの方の来場がありました。

岩手県は、地震保険の付帯率が 76.5%と、全国平均（70.8%）は上回っているものの、訓練のメイン会場である二戸市は 59.9%、当支部の参加会場である二戸郡一戸町は 62.4%と、岩手県内の市町村別でワースト 1 位と 2 位になっています【2025 年度数値】。また、火災保険への水災補償付帯率についても、岩手県は 60.3%と、全国平均（61.8%）を下回っており【2024 年度数値】、経済的な備えとしての損害保険が十分浸透していないことが分かります。

当支部では、①岩手県の地震保険付帯率は東北 6 県の中で 4 位であり、内陸部ではさらに低いこと、②水害の補償は火災保険の場合は「水災補償」を、自動車保険の場合は「車両保険」を付帯する必要があること、③火災保険金の請求は、災害に便乗した悪質な修理業者も存在するため、ご自身で請求を行うこと、をクイズ形式で参加者に呼びかけました。また、中学生向けには、防災クイズを用いて、災害時の身の守り方を学んでもらいました。

参加者からは、「沿岸部に比べるとどうしても地震に対する意識が薄くなるので、気を付けたい」「千葉豪雨もあり人ごとではないので、保険契約を確認したい」等の感想がありました。また、中学生の参加者はお互いに意見交換しながらクイズに取り組んでいました。

当支部では、引続き行政等と連携しつつ、防災意識向上および損害保険の理解促進に係る取組みを推進して参ります。



防災クイズを行う支部職員



中学生・自主防災組織が多く参加



達増知事がブース来訪した様子